

第30回MQI活動発表大会

2025年度MQI統一主題

新たな挑戦への一歩を共に踏み出そう

院内・院外・WEB参加者総数 237名
ご参加いただき、ありがとうございました！！

みみより
MQI

発行（公財）練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
TEL03-5988-2200（代）

第30回MQI活動発表大会を終えて

副院長・MQI活動推進委員会副委員長 東 宏一郎



第30回発表大会は、令和7年12月6日に地下講堂およびWebのハイブリッド形式で開催されました。院内外より多くの皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。今回の統一テーマは『新たな挑戦への一歩を共に踏み出そう』でした。過去3年間で最多となる7部署が、当院の強みを生かした新たな取り組みや、業務改善や患者さんの満足度向上につながる取り組みを行い、成果をあげられました。来年2月26日にはコネリホールでMQI30周年記念式典も予定されています。今回の成果を糧に、さらなる発展を目指して取り組んでまいりましょう！

会場の様子



第1部座長
金野京子
(看護部)



第2部座長
八代聖
(皮膚科)



総合司会
山崎勝巳
(広報・公益推進室)



MQI推進委員



特別講演「MQI30年の歩みとこれから -質改善の力で病院を発展へ」 理事長・院長・MQI活動推進委員会委員長 柳川達生



医療の質向上（MQI）活動は、1996年に医療機能評価の受審を契機として始まりました。当初は多職種が主体的に参加し、「改善に挑戦すること自体に価値がある」という熱意に満ちた活動でした。しかし、MQIの歩みは決して順調なものではありませんでした。第8回大会では、「MQIはもうやめるべきだ」という声が実際に院内から上がり、存続そのものが問われたこともあります。

第10回大会以降、様々な仕組みづくりを進めました。

さらに第13回大会（2008年）では、「1日で活動計画を立てる会」を開始しました。全チームが一堂に会し、徹底的に議論して計画を完成させる取り組みです。混乱も覚悟の上での決断でした。計画を発表するときには大きな不安がありましたが勇気をもって、まさに清水の舞台から飛び降りる気持ちで発表しました。



活動が再び活性化する中で、次の課題として「考え抜く力」「伝える力」の不足でした。改善を定着させるため第17回大会（2012年）から熱海・伊東での合宿研修をおこないました。夜を徹した議論を通じ、参加者は「与えられた改善を行う側」から「改善を創り出す側」へと意識を変えていきました。この経験は、MQIを文化として根付かせる大きな転機となりました。2016年2月、20周年記念式典をCoconeriホールで開催しました。

第25回大会（2020年）は、新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機の中で迎えました。MQIで培われてきた情報共有や文書管理、業務フロー整備の力は、迅速な初期対応と危機管理に大きく寄与しました。第25回大会から5年が経過した今、「継続」と「変革」という二つの使命を同時に担う段階に立っています。TQMにおける方針管理と日常管理を着実に回し続けること、その基盤となるMQI活動をはじめとする改善活動定着させることが、組織の持続的発展に不可欠です。改善を続ける力こそが、これからの病院を支えていきます。



★審査員紹介★

長時間にわたる審査をありがとうございました！

| | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |
| 【審査員長】 東宏一郎 副院長 MQI推進委員会 副委員長 | 【審査員】 金内幸子 MQI推進委員会 副委員長 | 【審査員】 栗原直人 副院長 | 【審査員】 佐藤松子 看護部長 | 【審査員】 阿部哲晴 事務長 | 【審査員】 関利一様 (株)日立製作所 病院統括本部 経営企画部 担当部長 ひたちなか総合病院 TQM統括室経営 支援センター長 | 【審査員】 横孝悦様 (株)横コンサルタント オフィス 代表取締役 | 【審査員】 篠健一様 (公財)東京都 医療保健協会 監事 篠健一税理士事務所 | 【審査員】 野口文江様 (公財)東京都 医療保健協会 評議員 旭丘一丁目 町会会長 | 【審査員】 佐伯みか様 順天堂大学 非常勤講師 (株)JDSC SmartX Business Development Manager Well-Being Senior Expert |

各賞受賞チーム



特別賞【看護部】 努力賞【臨床検査科】 優秀賞【内視鏡センター】 最優秀賞【薬剤科】

第30回MQI活動発表大会に関する総論的感想

株式会社 榎コンサルタントオフィス 代表取締役 榎 孝悦 様



第30回MQI発表大会の統一主題「新たな挑戦への一步を共に踏み出そう」は、練馬総合病院の30年にわたるMQI活動の節目にふさわしく、「各チームがどのようなテーマで取り組まれたのか。」を期待して審査に臨みました。

7チームの発表・審査、柳川理事長の特別講演「MQI 30年の歩みとこれから」、表彰という流れの中で、これまで何回も審査を経験しているにもかかわらず、採点の難しさをつくづく実感するとともに、感慨を覚えた大会でした。

コロナ禍以降、病院の経営環境は大きく変わったと言われ、医療DXの普及、患者の受診行動の変化、医療従事者の処遇改善など、公私に限らず、うまく適応できない病院の経営悪化が報道されています。

こうした状況下で医療法が改正され、業務効率化が管理者の努力義務となりました。また、業務効率化・職場環境の改善に積極的に取り組む病院を公的に認定し、対外的に発信できる仕組みを創設するとも言われています。

この観点から見た場合、今回発表された活動内容には業務の効率化を達成したチームもあり、新たな挑戦を実現したチームもあり、時代が求める活動モデルにふさわしいものでした。

しかし、柳川理事長が特別講演でお話されたように、MQIの仕組みは30年間の紆余曲折の中で変化し続けなければ現在がなかったのかもしれない。組織自体は継続していますが、組織を支える職員は日々入れ替わります。現在の問題をしっかりと把握し、「MQIのバトンを次に渡すにはどうすれば良いか。」を考へ続ける必要があると改めて認識しました。

MQI活動とともに「MQIをMQIする。」という活動が両輪をなすものだと考えています。組織全体で柳川理事長が示された考え方について議論し、深化させる必要があると思いました。今回の評価の要点も少し変わっていましたが、今後は、「継続」と「変革」の両輪でMQIがどのように変化していくのでしょうか。

最後に、本当に今年も素晴らしい発表であったこと、第30回発表大会が無事終了したのは活動推進委員会の委員の皆様の活動があったからこそとお伝えし、私の感想とさせていただきます。

来年の第31回MQI発表大会において、より多くのチームが「新たな挑戦への二歩目」を踏み出されることを期待しております。

参加チームからひとこと

| | | |
|--|--|---------------------------------------|
|  | 活動主体部署 | 臨床検査科 |
| | テーマ | エコー検査依頼に効率よく対応する仕組み作り |
| | チームリーダー | 藤井健介 |
| | 今回の活動で、エコー検査依頼に効率よく対応する仕組みを作り、予約検査の増加と、後日対応が可能と考えられる枠外検査の減少を達成することができました。増加するエコー検査需要に対応すべく、来年度にはエコー室増室、新検査機器導入が予定されています。本活動を軸に、さらに効率よくエコー検査に対応し、臨床側の要望に応えられるよう努めてまいります。活動にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。 | |
|  | 活動主体部署 | 放射線科 |
| | テーマ | 予約外検査体制の構築とMRI予約待機時間の短縮 |
| | チームリーダー | 岡村春菜 |
| | 新病院への移転後、初めてMRI検査の予約枠の見直しを実施しました。近年緊急MRIの需要が増加し、予約検査との調整が難しい状況が続いていましたが、今回の活動により緊急検査への対応が円滑に行えるようになりました。また、「以前よりMRIの予約が取りやすくなった」との声もいただいております。患者さんにとって利用しやすい体制づくりに一歩近づくことができました。本活動にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。 | |
|  | 活動主体部署 | リハビリテーション科 |
| | テーマ | こぶし棟1階を利用した運動教室 |
| | チームリーダー | 青山駿 |
| | 今回、こぶし棟1階を利用した運動教室を立ち上げ開催することができました。今後も活動を継続していき、参加人数を増やし地域住民の健康増進に貢献していけたらと思います。この活動に関わっていただいた職員の皆様に感謝申し上げます。今後何かありましたらご協力お願いします。 | |
|  | 活動主体部署 | 医事課 |
| | テーマ | 保険情報への理解 ～電子処方箋に対応できる体制づくり～ |
| | チームリーダー | 近藤拓也 |
| | この活動を通して処方箋の保険情報修正枚数が多かった診療科の修正率を有意に減少することができました。対策は業務に落とし込んでおり、継続しながらさらなる修正率減少を目指していきます。今後は対象診療科を拡大し、医師への保険情報への理解を推進していければと思います。チームメンバーをはじめ、この活動に関わっていただきました職員の皆様には感謝を申し上げます。ありがとうございました！ | |
|  | 活動主体部署 | 薬剤科 |
| | テーマ | 肥満症治療にチームで取り組む |
| | チームリーダー | 関口このは |
| | この1年間の活動で、様々な健康リスクを伴う肥満症に対して薬物治療を導入するための仕組みを作ることができました。これから薬剤導入が本格的に始まる為、院内・院外の医療者とより連携しながら気を引き締めて取り組んでいきたいと思っています。活動中は試行錯誤の連続でしたが、多職種の皆様の専門性と、ご協力があって実現できました。支えてくださったすべての方に心より感謝しています。 | |
|  | 活動主体部署 | 内視鏡センター |
| | テーマ | 経鼻内視鏡検査の苦痛軽減を目指す |
| | チームリーダー | 堀川由佳 |
| | 今回の活動で経鼻内視鏡検査は前処置から鼻腔挿入時、検査中、内視鏡抜去時にも苦痛があり、一概に楽ではなく辛い検査だと改めてわかりました。前処置を「噴霧法」に変更したことで検査前の「むせ」「鼻出血」が減った事は患者にとって大きな成果と考えます。また今後も健康医学センターと連携しながら「練馬総合病院で内視鏡検査を受けて良かった。」と思っていただける体制づくりを継続していきます。ここまで支えて頂いた推進委員はじめ多くの皆様に心から感謝申し上げます。 | |
|  | 活動主体部署 | 看護部 |
| | テーマ | InCircleTALKの運用方法を決め、多職種から医師への連絡に活用する |
| | チームリーダー | 三好翔太 |
| | MQI活動を1年通して実施したことで、課題を明確化することができました。他職種から医師への連絡にIn CircleTALKを活用するということを標準化することがとても困難でした。ですが、他職種の方に相談し、協力を得て運用を開始する事ができました。今後も看護部全体の質向上に貢献して行きたいと思っています。この活動を支えていただいた推進委員をはじめ職員の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。 | |

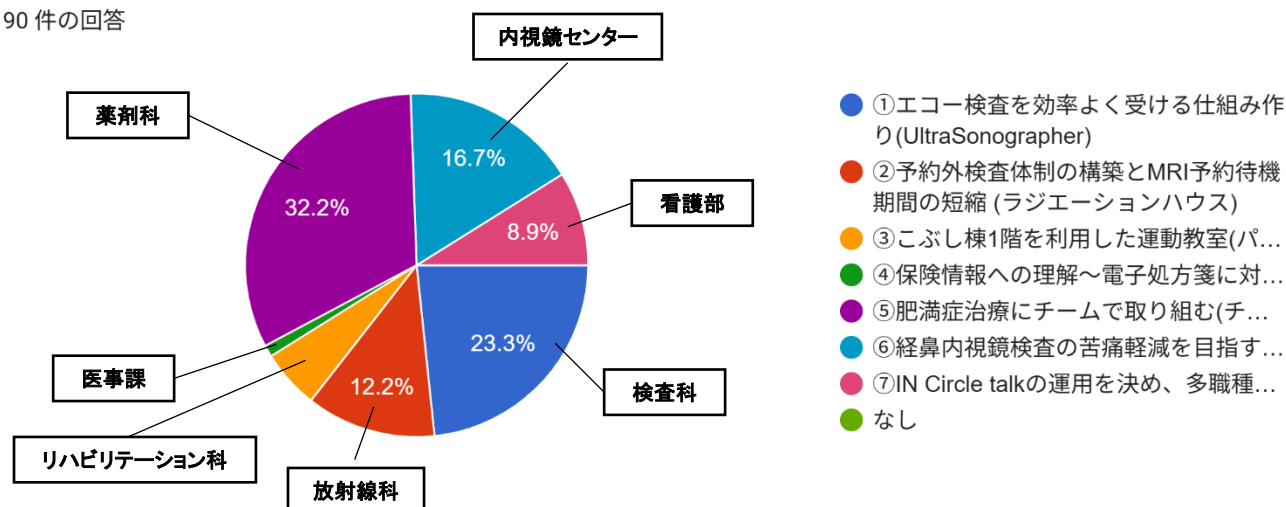
審査員より各チームへひとこと（一部抜粋）

| | 良かった点 | 今後の課題と思われる点・ご意見・ご感想 など |
|---------|--|--|
| 臨床検査科 | <ul style="list-style-type: none">3Dエコー枠と地域連携枠の利用率を示すことで、枠の見直しの必要性がインパクトをもって示せていました。また、対策実施のスライドが見やすく、どのような対策をとったのか初めて聞く人にも具体的に伝わり、活動内容をよく理解していただけたと思います。現場で現実的な不具合を認識したうえの取り組みであり、本活動成果をさらに波及させるという次への展開を見据えた意気込みを感じました。 | <ul style="list-style-type: none">予約管理がさらに自動化/DX化できればさらに良いと思いますので、電子カルテ更新時にアイデアをお願いします。「電話連絡がなくても当日依頼に対応できる仕組み」としてどのようなものを構築されるのか、楽しみです。テーマ選定理由に合った「検査の遅れ」「患者を待たせた時間」「検査が止まった時間や回数」の悪さ加減が数値的に示せるとよかったです。今後の課題に挙げられたように、エコー室が増えた際の運用に活かせることが期待されます。 |
| 放射線科 | <ul style="list-style-type: none">診断や治療が遅れるという致命的な課題に真正面から取り組まれた点。MRIの待機期間短縮というテーマは、長年の問題かつ医療の質向上に直結するもので、高く評価される取組でした。何より、件数増にも関わらず、待機期間激減という成果はとてもインパクトがありました。 | <ul style="list-style-type: none">造影/非造影の予約枠の設定が課題（特に造影剤投与の為のルート確保など）。病棟用のチェックリストは、MQI でなくても作成できたのではと思います。全体的に意図を汲みにくい表現（日本語・図）が多かったような気がします。内容が伝わらないのはもったいないので、対策を施してほしいと思いました。 |
| リハビリ科 | <ul style="list-style-type: none">運動指導に食事指導も併用する点が良いと思います退院後にも患者の状況にあった運動を継続できる場を構築したことで地域への貢献にも繋がっていると思います。「新たな挑戦への一步を共に踏み出そう」の統一主題にふさわしい活動でこれからの病院の在り方を考えさせられました。病医院だけではなくジムなども調査対象としており、広い視野にたっていて良かったです | <ul style="list-style-type: none">次の段階として体力評価・向上を評価できるとよいです。自主練習との組み合わせ、常に新しい患者さんをリクルートするためにも目標設定・進捗管理・出口戦略が必要と思います。目的や実施事項にリンクしたアウトカム評価が十分にできていないことがもったいないと思いました。アルブミン値、血糖値、体脂肪率など何でも良いですが、患者の問題に関連した数値評価できる項目が色々あると思うので是非取り組んでいただきたいと思います。 |
| 医事課 | <ul style="list-style-type: none">医事課が扱う業務の運用が変わるたびに、整備しなければならない大変さが良くわかりました。「保険情報の理解」というテーマの下では様々なこの種の取組が必要になってくると思います。院内電子処方箋も制度化される予定の中、タイムリーなテーマだと思いました。 | <ul style="list-style-type: none">処方箋に限らず病院全体として保険情報の理解を深める取り組みができるとよいと思います。課題を電子カルテ更新時に是非反映いただきたいと思います。副題の「電子処方箋に対応できる体制づくり」が見えてこないもので、今後の活動を期待します。内容についていけない感じがありました。門外漢でも分かるまとめ方だったと思います。 |
| 薬剤科 | <ul style="list-style-type: none">発表では課題達成の活動を分かりやすく説明して、実際の診療に反映している様子やチームワークの良さも伝わってきました。区内でいち早く肥満症診療を、多職種で開始できたことは、統一主題にも合致し良かったと思います。国際レベルの社会課題に果敢に挑戦され、潜在患者を見事に顕在化させ、患者の最大利益を鑑みながら3名の治療開始ができた点。発表展開も洗練されていました。 | <ul style="list-style-type: none">今後、減量効果の確認、リバウンド対策・チームでのフォロー体制の確立が望まれます。料理教室・運動教室の活用も検討いただきたいです。今後、「最適使用推進ガイドライン品目」は増加していく中で、このような取り組みが迅速に行われれば良いなと思いました。歯止め以降の部分の説明にもう少し時間が配分出来たらなお良かったと思います。学会等での発表を期待します。 |
| 内視鏡センター | <ul style="list-style-type: none">内視鏡の件数が増加し、効率性を高めることが期待される中、苦痛の軽減という患者さん目線の取り組みを実施されたことは素晴らしいかと思います。痛みのアンケートを取ることで、当院が患者さんに寄り添った取り組みをしていることが伝わったと思います。今回の発表の中で一番患者視点を持った活動で、理念に沿った活動であると思いました。資料の「内容」が、どのチームよりも部外者/視聴者視点で構成されていた点。 | <ul style="list-style-type: none">今後の課題もイメージ出来ており、継続した対応に期待します。患者からの質問への回答を標準化されましたが、質問やご意見を活かす仕組の標準化もしていただき、ぜひ全プロセスをホームページやSNSで発信していただきたいと思います。アピールする内容であるためデザインなど工夫すれば、強い発信力をもつと思いました。検査時間の短縮、苦痛軽減により、内視鏡検査のリピーターを増やしていきたいです。 |
| 看護部 | <ul style="list-style-type: none">看護部らしさが表れている取組で、病院の組織活動の基礎をなす仕組みの価値（職種間コミュニケーションの質）を高める活動だと思いました。各部署での困り事に焦点をあて、その中から医師との連絡の方法を構築したことで、患者の治療に少しでも早く対応できるようになったと思います。連絡可能な項目を定めたのは良かったと思います。また、現状把握が丁寧でグラフも分かりやすかったです。 | <ul style="list-style-type: none">この活動で患者にとって、何が有益かが検証されていると、もっと良い内容になったと思います。電話連絡との重複という業務負荷の解消をどのように進めるか、看護部チームが解散する前に解決したいところです。UI/UXへの要望は職種により異なり両立しがたいことが多いと推察します。この取組の継続発展は「病院全体の力の源泉」に十分なり得るため、挑戦し続けていただきたいと思います。 |

MQI 発表大会アンケート集計結果 (回答数90名)

良いと思ったチーム①

90 件の回答



MQI 活動発表大会に参加して良かったと思いますか。

- ・MQI活動立ち上げに際し、当時の飯田院長から、病院職員以外からも意見を聞きたいと声を掛けられ、池袋のホテルで立上げスタッフと議論を重ねたことを思い出します。当初は、職員の戸惑い、医師の後ろ向きな対応などから、3回ぐらいで終わるのかな、5回続けば良いかな、などと関係者と話していましたが、何と30回とは、感慨深いものがあります。
- ・他院の取り組みを知る機会が今までなかったのが大変勉強になりました。有り難うございました。
- ・ぽっちゃりチームが、リハビリの運動チームと連携したいといわれており、大会でつながり発展していくのが楽しみですばらしい。
- ・MQI自体、直接関係のない部署だと何の活動をしてるのか見えない部分があるのでこうして発表大会に参加する事で全貌が分かるのが良いです。
- ・初めて参加させていただきました。医療安全で行われるような分析やBSCの手法をふんだんに取り入れ、課題やそれに対して行うべきことを言語化することは人材・組織育成に非常に有効であると感じています。このような文化を醸成するには時間がかかるのだと思うので、自施設でも粘り強く対応していかなければならないと思いました。本日は参加させていただきました本当にありがとうございました。

今後、MQI 活動を継続的に実施していくためにはどのような工夫・配慮が必要だと思いますか？その他、当院（MQI 活動推進委員会）に期待すること、ご要望などがありましたらお書き下さい。

- ・発表ごとに審査配点を公開して、最高得点と最低得点をオリンピックのように排除して、審査の透明化図った方が発表者にも公正だと思います。
- ・業務時間内で活動できること、医師も一緒に活動することが必要と思う
- ・チームリーダーのメンタルケア・業務量の調整、継続するにあたってチームリーダーが負担を背負うので他の人に普及させるしくみ
- ・改革が必要なのは？特に上の職員を入れ換えるなどしたほうがいい
- ・もう少しMQIの作業時間が欲しかったです
- ・発表方法、特にスライドは文字情報が多すぎると思います。
- ・大会のために業務の中で割く時間が多すぎるので、もう少し効率化した運営がされるといい
- ・活動を継続するためには、勤務体制への配慮や、発表形式の柔軟化など、参加者が無理なく取り組める環境づくりが重要だと感じています。より患者さんに還元できる活動になることを期待しています。
- ・手順や作法を公開して欲しい。現状だと推進委員だけが知っている状態でブラックボックス的なイメージなので気軽に関わりにくい。
- ・チームに参加していないスタッフへの周知や協力をどのように進めるか、またチームスタッフは日々の業務と並行して行うにはどのように時間を捻出するとよいか考えさせられました。

<編集後記>

今年も現地とZOOMのハイブリッド開催としました。MQI発表大会は第30回の節目を迎え、2月にはMQI30周年記念式典も予定されています。さらに10年・20年と継続していける活動になる様に、来年以降も取り組んでいきましょう。「現在、MQI推進委員会では職員の皆様からMQI活動に限らず改善活動テーマのアイデアを募集しています。詳細は、CoMedixのお知らせにてご確認ください。」